



## 展覧会

### ちくご ist 尾花成春

このたび、久留米市美術館では、青木繁や坂本繁二郎を育んだ久留米および筑後の地にゆかりのある作家を紹介する「ちくご ist」シリーズの第1回として「ちくご ist 尾花成春」を開催いたします。

尾花成春（1926-2016）は現在のうきは市に生まれ、戦後は福岡の前衛美術集団「九州派」の一員としての活躍や、15年以上も描き続けた筑後川シリーズなどで知られていますが、その前後の作品については、これまで取り上げられる機会がほとんどありませんでした。

本展は、約100点の作品と資料を6章で構成し、尾花の画業を展望します。セザンヌに影響を受けた理知的な画面構成、砂や漆喰などを混ぜて生々しい物質感を強調した画肌など、常に新たな可能性を求めた画業を紹介する初めての展覧会です。ひたすら郷里で制作することこだわった画家・尾花成春をより広く知っていただく機会となれば幸いに存じます。

展覧会名	ちくご ist 尾花成春
会期	2024年4月20日(土)～7月7日(日) 月曜休館（4月29日、5月6日は開館）
作品数	約100点
会場	久留米市美術館
主催	久留米市美術館、毎日新聞社、RKB毎日放送
協力	Gallery 光画堂
後援	久留米市教育委員会、うきは市、うきは市教育委員会
スペシャル パートナー	株式会社ブリヂストン
オフィシャル パートナー	学校法人久留米大学、株式会社筑邦銀行、株式会社森光商店、喜多村石油株式会社、株式会社ユー・エス・イー
入館料	一般 700円（500円）、シニア 400円（200円）、大学生 400円（200円）、高校生以下無料 ※石橋正二郎記念館もご覧いただけます ・障害者手帳等の交付を受けている方とその介護者1名は無料となります ・（ ）内は15名以上の団体料金、シニアは65歳以上
開館時間	10:00-17:00（入館は16:30まで）
交通案内	JR 博多駅より JR 久留米駅まで新幹線で20分、在来線快速で40分 福岡(天神)駅より西鉄久留米駅まで特急で30分、急行で40分
本展に関する お問い合わせ	久留米市美術館（公益財団法人久留米文化振興会） 担当：森智志、松隈知子 〒839-0862 福岡県久留米市野中町1015（石橋文化センター内） TEL0942-39-1131 / FAX0942-39-3134 <a href="https://www.ishibashi-bunka.jp/kcam/">https://www.ishibashi-bunka.jp/kcam/</a>

※開催情報に変更がありました場合には、随時、当館ホームページ、SNS等によりお知らせいたします。



## 展覧会の見どころ

### 第1章 山の裏側を描け

うきは市に生まれ、県展や自由美術展で活躍するまでを紹介。歌人である父から言われた「山の裏側を描け」という言葉を尾花は生涯のテーマとして携え続けました。



1) 《初めての油絵》1941年 個人蔵



2) 《黄色い風景》1958年  
久留米市美術館蔵

### 第2章 黄色い風景

福岡の前衛美術集団「九州派」に参加した尾花が繰り返し描いたのは、幼い頃に耳納連山から見下ろした筑後平野。菜の花畑が一面に広がる画家の原風景を尾花は「黄色い風景」と呼びました。

### 第3章 筑後川に神を視た

オブジェの制作やインスタレーションなど表現の幅を広げ、一時的に絵画から遠ざかっていた尾花でしたが、1972年から再び本格的に絵筆をとり、故郷の筑後川を15年以上も描き続けました。



3) 《一筑後川より一朝羽大橋 (上側)》  
1987年 個人蔵



4) 《筑後川三部作 (天地水)》1988年 個人蔵



#### 第4章 存在の意

筑後川シリーズの後、尾花は新たな画題を海に求めました。画家が「筑後の色」だと語る黒で描いた海を背景に、二つの石が浮かぶ「存在の意」シリーズのほか、長崎県の平戸や音楽をテーマにした作品を紹介します。



5) 《存在の意（国東の海より）》  
1993年 個人蔵



6) 《海よりの風景》1993年  
個人蔵



7) 《リスト交響詩第1番「山上にて聞きしこと」V.ユーゴより》1997年 個人蔵

#### 第5章 存在の何たるか

目に見えるものの奥にあるものを突き詰めようと、尾花は具象的なイメージを描かずひたすらに絵具を塗りこめる作品を制作します。塗ってはふき取り、そして新たに塗るという行為を繰り返した作品は、すべて同じようにも見えますが、どれも全くことなる画肌を獲得しています。



8) 《タイトルなし》2003年  
個人蔵

#### 第6章 声なきものの声を聞く

溪谷に眠る埋もれ木や、ひそやかに散る庭先のカラーの花。尾花はこれらを老子の「形なきものの形を見 声なきものの声を聞く」になぞらえて「声なき声」と呼び、晩年にして「ようやく描くものがわかった」と語りました。



9) 《溪谷にて想うこと  
（大分県前津江）》2009年  
個人蔵



10) 《花に語る》2010年  
個人蔵



関連イベントのご案内

美術講座

---

① 「筑後川の原像 一尾花成春と風景の哲学」

5月11日(土) 14:00-15:30

講師：深野治氏(元フクニチ新聞記者、『西日本文化』編集長)

② 「筑後の人、尾花成春」

6月8日(土) 14:00-15:30

講師：森智志(当館学芸員)

会場：美術館1階 多目的ルーム

定員：50名(申込不要、先着順)

尾花成春へのオマージュ(コンサート、全3回)

---

ミュージアムコンサート

6月2日(日) 14:00-15:15

会場：石橋文化ホール

料金：大人700円、シニア・大学生400円、高校生以下無料

本展チケットで入場可

問い合わせ先：石橋文化センター tel:0942-33-2271 FAX:0942-39-7837

1F ギャラリーコンサート

5月26日(日) …① / 6月20日(木) …②

時間：いずれも14:00-15:00

会場：美術館1階ロビー

定員各回50名(要申込)

[お申込]①は5月7日(火)まで、②は6月2日まで。

参加を希望される方の氏名(2名まで可)と

代表の方のご住所、氏名、連絡の取れる電話番号を記入の上

ハガキ、FAXまたはWebで久留米市美術館まで。応募多数の場合は抽選。

結果は①5月17日(金)、②6月11日(火)までに応募者全員にお知らせします。



## ワークショップ

---

**混ぜて重ねてゴツゴツザラザラ～春を描く～**

**5月19日（日）10:30-（2時間半程度）**

会場：美術館1階多目的ルーム

定員：10名（要申込）

対象：小学5年生以上はどなたでも

講師：國吉篤子氏（「うさぎアートクラブ」主宰）

[お申込] 4月30日（火）まで

参加を希望される方の氏名（2名まで可）と

代表の方のご住所、氏名、連絡の取れる電話番号を記入の上

ハガキ、FAXまたはWebで久留米市美術館・ワークショップ係へ。

応募多数の場合は抽選。

結果は5月10日（金）までに応募者全員にお知らせします。

## ギャラリートーク

---

**サポートボランティアによるギャラリートーク**

**5月4日、18日、6月1日、15日、29日、7月6日 いずれも土曜日**

**14:00-14:20**

集合場所：美術館2階エントランス

**担当学芸員によるギャラリートーク**

**6月22日（土） 14:00-14:45**

集合場所：美術館2階エントランス

## 作品掲載に関するお願い

1. 作品掲載をご希望の方は、別紙の「画像利用申込書」にて申請ください。
2. 展覧会の広報を目的とした使用に限らせていただきます。二次使用はできません。
3. 作品の文字のせ、トリミングはできません。
4. 当館が指定するクレジットを必ず作品と一緒に掲載してください。クレジットは別紙の「広報画像利用申込書」をご参照ください。
5. web ページ掲載の場合は、必ずコピーガードの処理をお願いします。
6. 広報用作品以外の画像をご希望の場合は、申込書の「その他」の欄にタイトルを記入してください。
7. 掲載見本を必ず1部お送りください。